

公立刈田総合病院の現状と  
地域医療について

佐藤 龍彦



〔質問〕現在、公立刈田総合病院に勤務している看護師の人数を伺う。

〔答弁〕「保健福祉部長」本年5月31日現在、正職員80名、パート職員7名、任期付き職員11名の合計98名となっている。

〔質問〕休床している47床の稼働はいつ頃になるのか伺う。

〔答弁〕「保健福祉部長」指定管理者からは、稼働に向けて看護師の採用を積極的に行なっており、夏にかけての追加採用を含め、必要な人員が整い次第、今年度中に再開したいと聞いています。

〔質問〕令和5年度の収支の見通しを伺う。

〔答弁〕「保健福祉部長」指定管理開始当初から、「断らない医療」をモットーに掲げ、院内においても周知徹底したこと

で救急患者の受け入れ、病床稼働率、他院からの紹介受け入れを増やすことができている。これにより医療収益も増

加し、また、市からの交付金等も考慮すると、黒字を達成できる見込みであると指定管理者から報告を受けている。

〔質問〕みやぎ県南中核病院への通院のための交通手段について、市民バスの路線の延伸等を

求める声があるが、本市の考えを伺う。

〔答弁〕「副市長」市民バスのみやぎ県南中核病

院への運行の予定はない。

〔質問〕今後のみやぎ県南中核病院との連携について伺う。

〔答弁〕「市長」連携プランにより、公立刈田総合病院は急性期機能を保持しつつ、仙南医療圏において回復期医療を担うこととなり、指定管理者制度導入後、救急患者の受け入れ件数、他の病院からの紹介も大幅に増加し、みやぎ県南中核病院との連携についても以前に比べ、大変スムーズに進んでいると報告を受けている。みやぎ県南中核病院とは良好な連携が築けており、今後も連携プランに基づき、回復期医療の強化を図ることは、仙南医療圏を支える一つの仕組みになっていると考えています。

【その他の質問】

◎本市の教育および教育環境について

（仮称）白石中央S・I・C周辺  
整備後の本市経済効果について

高子 秀明



〔質問〕本市財政に寄与する歳入規模について、（仮称）白石中央スマー

トインターチェンジ周辺整備事業、その事業コンセプトである「地域全体でにぎわいを創出し、白石の未来をデザインする新たな交流拠点を目指して」が、全体

の施設や工業団地が運用後達成されるとした場合に、想定される本市財政に寄与する歳入規模をどう見込んでいるか伺う。

〔答弁〕「都市創造課長」進出する企業の規模や業務形態により、あらかじめ歳入規模の想定を行うことは困難である

ものと考えている。しかしながら、企業の進出がなされれば、法人市民税、雇用された従業者の個人住民税や住居に

対する固定資産税に加え、個人の消費意欲向上など、さまざまな形で本市財政に好影響を与えるものと考えている。

〔質問〕本事業の事業コンセプトが達成されるとした場合に想定される本市の市民経済にもたらされる経済効果、市内総生産の増加をどのように見込んでいるか伺う。

〔答弁〕「市長」（仮称）白石中央スマー トインターチェンジ周辺整備事業は、既に行われている建設工事等による投資、工事等に伴う地元企業への発注や消費、道の駅開業後における消費や市内観光施設および事業所への消費など、本市市民経済にもたらされる経済効果は大きく寄与するものと期待している。本市の令和2年製造品出荷額等は総額1千541億4千683万円、平成30年に1千600億円を超えているもの、この数年はほぼ横ばいで推移をしている。経済効果の具体的な数値については、進出される企業の規模や業務形態、さらに景気等の影響により変動することから、なかなか想定を行うことは困難であると考えているが、第六次白石市総合計画において、製造業の製造品出荷額を令和12年度目標値として、1千900億円と掲げていることから、目標達成に向けて、企業誘致や創業支援などの取り組みをさらに充実させ、本事業が本市経済に、確実な好影響を与えるよう全力で取り組む。

二次元コードから各議員の質問動画へアクセスできます。